

校長室だより

学校教育目標 「**学びを生かす子供**」

～自信と誇りをもった「きらりと輝く龍峯っ子」の育成～

八代市立龍峯小学校
校長 村嶋 博史



R2,7,20

NO,14

「挨拶」(あいさつ)は「自分から先に心を開く」行為

前号でもお知らせしましたが、本校では「やつしろスピリッツ」(あいさつ・ききかた・そろえかた)の徹底を学校総体で取り組んでいます。本号では、その中の「あいさつ」について現状等をお知らせします。

挨拶の「挨」(あい)の訓読みは「ひらく」で、意味の一つは「近づく」です。また、「拶」(さつ)の訓読みは「せまる」で、意味の一つにこちらも「近づく」があります。つまり、挨拶とは、「自分から心を開いて、相手に迫り、お近づきになる」という行為だと考えます。よって、「自分から先に挨拶をする」(自分から先に心を開く)ことを大切にすべきだと思います。

この豊かな人間関係を築くうえでとても重要な行為である挨拶を、子供たちに身につけさせ、豊かな生活を送ってほしいと願っています。

私は、毎日7時30分から正門に立ち(時には清掃をしながら)、子供たちと挨拶を交わしていますが、龍峯小学校の多くの子供たちはよく挨拶をします。中には、遠くから大きな声で「おはようございます」と挨拶する子供や挨拶とともに捕まえてきた虫の話や楽しみにしている授業の話等をする子供、お辞儀をして挨拶する子供、にこっと笑顔で挨拶する子供等がいて、明るく温かい気持ちになります。一方、目を合わせない子供や無反応な子供がいて、心の状態等を心配することもあります。地域の方からも「よく挨拶してくれます。しかし、しない子供はしないですね」と同様の声がありました。

学校では、子供たちの自発的な挨拶やその習慣化に向けて、規則や押しつけではなく、全職員の率先垂範(＝自らが進んで見本になること)により子供たちに挨拶の良さを味わわせたり、毎日数多く挨拶を交わしたりすることに取り組んでいます。

「子供は大人を映す鏡」とも言われます。大人の率先垂範により子供の生活を豊かにするように努めていきます。

通学路冠水のため迂回をお願いしました

14日(火)の登校時間帯に、小学校から50m程南の水路に流木が詰まり、行き場を失った雨水が通学路上に流れ出ていましたので、急きょ保護者の皆様に登校の際の迂回を呼びかける連絡を安心・安全メールにて行いました。

急な連絡ではありましたが、保護者の皆様の迅速なご対応により、大きな混乱もなく児童が安全に登校できましたことを大変嬉しく思いました。ご理解とご協力に心より感謝します。

また、どしゃ降りの中、土のうを積み、流れ出た大量の水が近くの川へ流れ込むように水の流れを作られた地元消防団や警察、地域の皆様、そして、流木撤去等をされた業者の方々のご尽力に心より感謝します。おかげさまで大きな被害もなく、午前10時には、通行可能となりました。

子育て一口メモ 「条件、比較」

幼児教育家 はやし浩司

「100点とったら、お小遣いをあげる」「1時間勉強したら、お菓子をあげる」というのが条件。「A君は、もうカタカナが読めるのよ」「お兄ちゃんが、あんたのときは、学校で一番だったのよ」というのが、比較ということになる。条件や比較は、子供からやる気を奪うだけでなく、子供の心を卑屈にする。日常化すれば、「私は私」という生き方すらできなくなってしまう。子供の問題というよりは、親自身の問題として、考えたらよい。(内発的動機づけ)

※学校ホームページに本紙のカラー版の他、様々な情報を掲載していますのでご覧ください。

八代市立龍峯小学校で検索ください。